

令和5年度

学校自己評価報告書

令和6年5月

久留米大学医学部附属
臨床検査専門学校

令和5年度学校自己評価について

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校は、創立56年の歴史と伝統を持つ学校です。医学部附属の特長を活かし、時代のニーズに合った講義の充実と実践的な技術養成のため実習重視の教育によって、医療人そして社会人として必要な豊かな人間性を育み、医療の現場の最前線で活躍できる臨床検査技師の育成を目指して参りました。

本校ではその取り組みの中で、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に評価項目を見直し、現状と課題の把握及び改善策の検討・実施を行っています。

評価は、学生による教員評価アンケート、新卒者の臨床検査技師国家試験の合否結果と就職状況、臨地実習指導者会議及び保護者の会役員会での結果なども参考にしておこなっており、この学校自己評価の結果を生かし、今後も更なる教育の質の向上を図りたいと考えています。

なお、2024年（令和6年）には本学の臨床検査技師養成機関の発展的改組を行い、医学部医療検査学科を開設することとなりました。これに伴い、本校では、2024（令和6）年度以降の入学者の募集を停止し、2025（令和7）年度末で閉校する予定です。引き続き、令和6年度の在校生（2,3年生）への教育・学校生活、国家試験対策、就職支援について、責任を持って全力で指導する所存ですので、みなさまのご理解とご支援のほどお願い申し上げます。

1. 対象期間

令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日

2. 実施方法

- (1) 「久留米大学医学部附属臨床検査専門学校教務会」の学校長、教務主任、専任教員及び事務職員によって評価を行う。
- (2) 委員構成
議 長：校長
委 員：臨床検査専門学校 教務主任、専任教員及び事務職員
評 価：「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行う。
- (3) 評価は、年一回5月に行う。
- (4) 評価結果の公開は、報告書をホームページに掲載することによって行う。

3. 自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目を実施する。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営

- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

評価は、次の4～1の点数で評価記載。

4:適切、3:ほぼ適切、2:やや不適切、1:不適切

5. 自己評価結果（令和5年度）

(1) 教育理念・目標

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	学校の理念・目的・育成人材像は明確であるか	4
b	学校における職業教育の特色は何か	4
c	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
d	教育目標、育成人材像は、業界のニーズを踏まえているか	3

② 状況及び課題と改善策

- a. 学校の教育の理念・目的・育成人材像については明確に定められ、シラバス、ホームページ上に公開している。
- b. 医学部附属である特徴を生かして医学部および大学病院の講師陣約150名による指導体制の下、実習時間を十分に確保することにより、3年間の修業年限で卒業後に即戦力となり得る人材の育成を図っているのが特色である。
- c. 本校の母体である久留米大学は、次世代型臨床検査技師の育成へ対応するための将来構想として、本校を発展的に改組し、医学部内に4年制の医療検査学科を設置する方針を決定した。文部科学省の認可を得て新学科が令和6年度に開設され、厚生労働大臣の承認を受けた臨床検査技師養成校として、第1期生77名が入学した。新学科では、本大学の特色を活かして医学部と附置研究所、および文系学部の教育研究力を活用し、質の高いメディカルテクノロジー（臨床検査）教育、医学部連携プログラムによる多職種連携教育、全学的文医融合プログラムによるヘルスサイエンス（健康科学）教育を行い、社会のニーズに対応し医療や医学研究へ貢献することができる臨床検査技師の養成を目的としている。
- d. 教育目標、育成人材像については、医療業界のニーズを踏まえて作成されて

いる。学校は、久留米大学医学部と大学病院、学外の臨地実習先と密に関わり、日本臨床検査学教育協議会に所属して最新の臨床検査技師養成の動向を入手するなどにより、現場のニーズを感知できる体制づくりをはかっている。

令和3年10月には、医師の働き方改革に基づく臨床検査技師の業務拡大（タスク・シフト/シェアリング）を定めた法改正が施行され、令和4年度以降の入学生対象の臨床検査技師養成カリキュラムも改正された。これに伴い、シラバスやホームページに明記する具体的な教育目標にも改正内容を反映させている。

(2) 学校運営

① 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	目的等に沿った運営方針・事業計画が策定されているか	3
b	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
c	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3

② 状況及び課題と改善策

- a. 本校が所属する久留米大学では、建学の精神を「国手の矜持は常に仁なり」と定め、各分野での優れた実践的人材（国手）の育成に努めている。本校においても、医学部附属の機関として、目的に沿う運営方針、事業計画を策定している。
- b. 本校の管理運営を円滑にはかるため、学校長の諮問機関として運営委員会を設けており、内規を定めて運用している。運営委員会の委員は、学校長、教務主任、講師会の幹事、医学部長、附属病院長、臨床検査部長、事務局長および医学部事務部長をもって組織しており（久留米大学医学部附属臨総検査専門学校運営委員会内規第2条）、学校運営における意思決定機関として有効に機能している。
- c. 教育活動等に関する情報としては、教育目標、教育課程モデルプラン、授業計画（講義シラバス）、試験と成績評価法、実務経験のある教員等による授業科目一覧表をホームページ上に公開している。
- なお、情報公開の一手段としてこれまで活用してきた学校・入試案内パンフレットについては、2024（令和6）年度以降の募集停止と共にその役目を終えたため、作成していない。

(3) 教育活動

① 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
b	教育理念、育成人材像やニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
c	カリキュラムは体系的に編成されているか	3
d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
e	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
f	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
g	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

② 状況及び課題と改善策

a. 教育課程の編成・実施方針等は、教育理念等に基づき策定されている。また、時代の変化を受けて令和2~3年に行われた臨床検査技師等に関する法律が改正され、これに基づく令和4年度以降の入学生対象の臨床検査技師養成カリキュラム改正にも対応しながら教育課程の編成・実施方針を改訂した。

以下、本校における令和4年度以降の入学生対象のカリキュラムを『新カリキュラム』、それ以前のカリキュラムを『従来型カリキュラム』と表記する。

b. 育成する人材像やニーズを踏まえた臨床検査科としての教育到達レベルについては、シラバスやホームページなどに示している。

文部科学省が定める卒業要件に必須の最小取得単位としては、3年制の短期大学等で93単位、4年制大学で124単位となっている。一方、本校の『従来型カリキュラム』の卒業要件には、118単位（うち臨地実習11単位）の履修を課している。これは、教育目標を達成するために、臨床検査技師国家試験受験資格に必要な95単位（令和4年度以降入学生からは102単位に増加）を上回るカリキュラムを編成していたためであるが、平均の学年当たりの学習量が通常よりも多いことが示唆される。

そのため、今回のカリキュラム改訂では、自学自修時間を確保して、学生が効果的に履修内容の理解を深められるよう、以下の方針を策定した。

① 新たな臨床検査技師養成所指導ガイドラインでは、『従来型カリキュラム』は含まれていなかった教育内容が複数項目追加されたが、『新カリキュラム』においても卒業要件となる単位数は118単位（臨地実習11単位）にとどめた。

② 各科目責任者と協議を行い学習内容と履修順序などを見直すことにより、授業のスリム化と効率化を図った。

c. カリキュラムは、教養を含む基礎分野、専門基礎分野、専門分野が体系的に履修できることをねらいとして編成され、シラバスに明示している。カリキュラム体系図としても可視化し、ホームページ上に示している。

- d. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムが編成され実施されている。

【法改正に対応したカリキュラムの実施】

令和5年度は、改正に対応する本校の『新カリキュラム』を1年次、2年次にて滞りなく実施した。令和3年度に入学した3年次にはそのまま『従来型カリキュラム』が適用されたが、この学年においてもタスク・シフト/シェアリングの情報を紹介するとともに、法改正により新たに教育すべき必須項目となった一部のトピックス（静脈路への電解質輸液の接続、持続皮下グルコース検査、認知症検査など）について概説を学ぶ時間を授業内に設けるなど、社会の動向を反映させた教育内容へとアップデートを行った。

【臨地実習におけるチーム医療への参加】

令和6年度の『新カリキュラム』における臨地実習から必須となるチーム医療の見学等について、久留米大学病院および医学部の各部署のご協力をいただき、対応している。令和4年度からは医療安全会議への参加、さらに令和5年度から ICT（感染制御チーム）・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）、NST（栄養サポートチーム）活動と消化管内視鏡検査、質量分析医学応用施設の見学を、大学病院の実習学生がすべて経験できるように企画・実施した。

【臨地実習開始前の指導】

接遇研修を行い、心構えとマナーを学生に実践的に再確認させるとともに、日本臨床検査学教育協議会が推奨する『臨地実習前技能修得到達度評価』の実施基準に準拠したトレーニングと実技評価、学生へのフィードバックを行った。

【低学年に向けた臨地実習報告会の開催】

令和5年度は初めての試みとして、臨地実習の終了後に、全校生が集う中で3年生による各医療施設における臨地実習の報告会を行った。これは、低学年のうちから各施設における臨床検査の在り方や多職種連携の様子、実習場面で学生自身に求められること、などを垣間見ることにより、各学生が早期から将来をイメージしつつ校内での学修に取り組むことを促す効果があったため、次年度も継続して実施する予定である。

【学生の学会、症例検討会、講習会の参加支援（希望者）】

令和5年度には、佐賀市で行われた第57回日臨技九州支部医学検査学会への参加を募り、希望者には貸切バスを用いて専任教員が引率することにより、1年生17名、2年生33名、3年生1名に学会会場で見聞、学びを広げる機会を与えた。さらに同学会の学生フォーラムでは、2年生1名が演者として発表した（資料1参照）。学生の演題登録、および発表準備において、学年担任を中心に教員が助言と支援を行った。

他にも、久留米大学病院臨床検査部からご紹介をいただき、第151回および第152回信州大学RCPC、シスメックス社の久留米大学病院NCCオンコパネル説

明会（詳細は以下の g を参照）を 1～3 年生の希望者が受講した。

- e. 学校自己評価に対する外部関係者の評価については、令和 2 年度から校長、および外部関係者から構成される学校評価委員会を毎年開催することと定め、実施している。

また、臨地実習終了後に臨地実習指導者会議を行うことにより、臨地実習先の各病院から、その年派遣した学生に関する講評、および本校での学生教育の在り方についての評価と助言をいただいている。令和 5 年度も、オンライン形式で臨地実習指導者会議を実施し、臨地実習の在り方についての意見交換を行い、次年度の実施条件等について協議した。

コロナ禍を経て 4 年ぶりに開催された令和 5 年度 日本臨床検査学教育協議会九州・沖縄部会（9 月 13 日延岡 九州保健福祉大学）に本校から 2 名が出席した。ここに九州各県の臨床検査技師養成校の代表者が集い、各校の学生募集、教育活動と学生生活、および就職活動に関する現状と課題について情報・意見交換を行うとともに、令和 6 年度に一部の学生※で受講が必要な『厚生労働省による学生向けタスクシフト/シェア講習会』を養成校が協力しつつ開催するための方略についての審議を行った。

※令和 3 年度以前の入学者で令和 7 年以降の国家試験受験を希望する在校生。

- f. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められ、シラバス、学生と保護者に配付される「学生生活」に明記し、ホームページ上にも公開している。

- g. 令和 5 年度における、教員の能力開発のための研修参加実績は、以下のとおりである。

【学外主催の研修会・講演の受講、学会参加等による、教育・実務に関する研鑽】

以下の学外の研修会、講演等を受講して、『新カリキュラム』の在り方（臨地実習関連を含む）や臨床検査学の各分野における教育研究について新しい知見を得るとともに研鑽を行った。

- ・日本臨床検査学教育協議会の臨時総会教員研修会（12 月 18 日 Web 配信）。
タイトル：タスクシフト関連業務の先行導入事例と臨床検査技師の展望
- ・第 17 回 日本臨床検査学教育学会学術大会（8 月 23-24 日 天理大学）
学会テーマ：求められる次世代型臨床検査学教育
- ・第 57 回 日臨技九州支部医学検査学会（10 月 21-22 日 佐賀市民会館）
学会テーマ：未来への改革～臨床検査のソーシャル・イノベーション～
- ・第 151 回 信州大学 RCPC（9 月 2 日 日本学基礎 3 号館セミナー室にて Web 参加）
- ・第 152 回 信州大学 RCPC（10 月 28 日 同上）
- ・シスメックス株式会社による久留米大学病院 NCC オンコパネル説明会（11 月 27 日 Web 受講）

また、臨床検査技師等に関する法律の改正を受けて、臨地実習受け入れ施設の指導者を対象とする臨地実習指導者講習会（日本臨床衛生検査技師会と日本臨床検査学教育協議会の共催）に協力し、専任教員（吉野）が、8 月 27 日および 3 月 24 日に世話人として参加した。これにより今後、大きく変化する臨地実習受け入れ施設との連携の在り方について、養成校の立場からも学ぶことができ、令和 6 年度の本校の臨地実習にも反映させている。

その他に、日本臨床衛生検査技師会に所属する教員は、各専門分野における講演会、研修会に参加する（Webによるものを含む）、臨床検査業務の実務として、専任教員1名が他県からの依頼を受けて衛生検査所への立入検査を行うなど、適宜、臨床検査の現場に必要な最新の知識を得るようにつとめた。

【臨床検査技師国家試験解析研究チームへの参画】

わが国の臨床検査技師養成教育の質向上と精度の高い国家試験の実現を促すことを目的とし、令和3年度から山陽女子短期大学教員を主とする国家試験成績解析研究チームが全国の養成校（任意：令和3年度国家試験では38校、令和4年度は40校が参加）の成績を解析・フィードバックを行っている。

令和4年度12月から、本校の専任教員（吉野）がこの研究チームの正式メンバーとなり、令和5年度も引き続き、データ解析への協力とより適切なデータ収集・解析・公表に参画した。

【論文発表、学会発表、学位取得】

教員の研究・教育活動の成果として、原著論文2編が受理され、教員による学会発表4件、学生による学会発表1件が行われた。また、令和6年4月1日付で1名が博士（医学）の学位を取得した。

【学生による授業評価アンケート】

令和5年度も、授業終了後の学生による授業評価アンケートの対象を1,2年次の全授業科目で行い、授業と講師の対応に関する4段階評価、および自由記述によるフィードバックを調査した。各講師には、アンケート結果を今後の授業の質向上に役立てていただくため、年度終了時に各講師へ送付した。

【久留米大学が実施する研修会の受講】

本学の指針に基づき、教職員は研究倫理、ハラスメント、合理的配慮に関するeラーニング、対面講習会を、また、医学部教員と事務職員を対象とする久留米大学eラーニングプラットフォーム（Hondana）の対面講習会などを受講した。

(4) 学修成果

① 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	資格取得率の向上が図られているか	4
b	就職率の向上が図られているか	4

② 状況及び課題と改善策

a. 令和5年度での臨床検査技師国家試験合格率では、新卒者98.1%（52名中51名合格）を達成し、全国新卒者平均88.0%を大きく上回った。また、既卒者の全国合格率は26.3%であったが、本校既卒者合格率は0.0%（1名中合格者なし）であった。

その他の資格においては、毒物劇物取扱責任者の資格を25名（1年24名、2

年 1 名)、日本不整脈心電学会による心電図検定では 4 級 3 名 (2 年)、日本電子顕微鏡学会による電子顕微鏡技術認定試験の資格を 1 名 (1 年)、日本バイオ技術教育学会による中級バイオ技術者認定試験の資格を 1 名 (1 年)、赤十字ベシックライフサポーターを 1 名 (1 年) が取得した。

- b. キャリア教育については接遇研修、模擬面接指導、学校での企業説明会を随時実施しており、学生の就職活動支援についても、個々の面接試験に先立って担任を始めとした専任教員が履歴書の添削や模擬面接に応じた。なお、令和 5 年度卒業生においても、希望する学生全員が就職を実現することができた。

(5) 学生支援

① 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4
c	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
e	保護者と適切に連携しているか	3
f	卒業生への支援体制はあるか	4

② 状況及び課題と改善策

- a. 進路・就職に関する支援体制は整備され、接遇研修や面接指導なども適時実施している。また、求人情報を電子化して学外からもアクセス可能とし、学生の利便性を図り、オンライン就職面接で使用できるパソコン、ネットワークを完備した部屋を提供している。
- b. 学生相談については、保健管理センターに学生相談室及び学生支援室が設置され、各曜日に精神科医や臨床心理士が相談に応じる体制が整備されている。
また、日頃から学年担任・副担任が連携して学生の出席状況や体調の変化などを把握し、体調不良、悩みがありそうな学生へは早めに声をかけるよう努めており、専任教員や事務職員との情報共有も行っている。必要に応じて保健管理センターの相談窓口を紹介している。
- c. 令和 2 年度から始まった「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として認定され、令和 5 年度は 11 名の学生が入学金・授業料減免を受けることができた。また、その他にもコロナ寄付金を原資とした各学年での食料支援を令和 5 年 4 月～令和 6 年 1 月の間に、全学年で 1 人当たり 3,200 円分を行った。
- d. 本校が設置されている本学旭町キャンパスには保健管理センターがあり各学生のメンタル面を含めた健康管理が行われている。必要に応じて保健管理センターと各学年担任が連携し、フォローを行っている。
急な発熱その他体調不良のために登校できない学生についても、当日に担任へ連絡を行うこととし、症状に応じて保健管理センターの助言を仰ぐ、近医や

かかりつけ医の受診を促す、などにより、回復までの経過観察や支援を行った。
また、講義中又は実習中に自立歩行や車椅子移動が困難になる体調不良者に備えストレッチャーの購入も行った。

- e. 保護者の会役員会・総会を開催し、学生の教育、施設運営、その他必要と認められた諸活動についての理解を得ることができた。なお、保護者面談については保護者の会開催日だけではなく、成績不振者に対しても随時必要に応じ対面又はオンラインで実施した。
- f. 同窓会と協力し、ホームページ等を利用した卒業生への情報提供を行っている。

(6) 教育環境

① 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	施設・設備は、整備されているか	3
b	防災に対する体制は整備されているか	3

② 状況及び課題と改善策

- a. 校舎は老朽化してきているものの、必要に応じ各所の修理を行っている。
令和5年度においても、eラーニングプラットフォーム（Hondana）を利用したオンデマンド形式による遠隔授業やライブ配信を稼働させ、自宅からもリアルタイムで講義を受講できる環境を設けて体調不良等で対面授業に参加できない学生への負担軽減を図った。
- b. 防災体制も整備されている。また、自然災害があった場合の学生の安否確認の体制（緊急連絡用メーリングリスト、緊急連絡先名簿の作成等）についても整備している。また、消防法に定められた消防設備点検も毎年実施し、昨年度に引き続き老朽化した誘導灯の更新も実施した。

(7) 学生の受入れ募集

① 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	学生募集活動は、適正に行われているか	
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	
c	学納金は妥当なものとなっているか	4

② 状況及び課題と改善策

- ab. 本校は2024（令和6）年度以降の入学者の募集を停止し、令和7年度で閉校の予定であるため、今後の募集活動は実施していない。
- c. 平成31年度の入学生から5万円増額した以降は、据え置いたままである。本

校の学納金額は近隣の私立の臨床検査技師養成校と比較して、入学生に配慮されていると思われる。

(8) 財務

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
c	財務情報公開の体制整備はできているか	4

② 状況及び課題と改善策

- a. 令和5年度においても、事業計画は実施事業の検証及び収支計画を確認した上で、中長期計画の事業意義や優先度、緊急性のある案件に限定し、学校法人全体の単年度収支を勘案して実施されており中長期的な財務基盤は安定している。
- b. 充分ではないものの優先順位を考慮し有効かつ妥当性を考慮した予算・収支計画が行われている。
- c. 財務情報公開の体制整備はされており Web にも公開されている。

(9) 法令等の遵守

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
b	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3

② 状況及び課題と改善策

- a. 個人情報の保護の対策はとられており、第三者への情報提供についても上長の決裁を仰いだり、授受記録を残すなどの配慮がされている。
- b. 平成30年度から年度毎に学校自己評価報告書をホームページ上に公開している。令和2年度から校長、および外部関係者から構成される学校評価委員会を設置し、前年度に対する学校自己評価報告書案を学校評価委員会が検討し、公正な自己評価の実施と改善すべき問題点の抽出を行い公表し、問題点の改善に取り組んでいる。

(10) 社会貢献・地域貢献

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
b	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3

②状況及び課題と改善策

a. 【施設・設備の活用】

本学の医学部医学科 4 年の臨床技能到達実習時に心電計の貸し出し、高等教育コンソーシアム久留米主催の「サイエンスモール in くるめ」に参加した本校 1 年生に顕微鏡の貸し出しなどを行った。

b. 令和 5 年度は、以下のイベントにて、臨床検査技師養成課程の学生として実施できる活動を学生に紹介し、ボランティアとしての参加を奨励、支援した。

- ・ 7 月 22 日、23 日に久留米大学医学部先端イメージング研究センターが主催した夏休み顕微鏡体験ワークショップ(小学生以下の親子対象)にスタッフとして 1 年生十数名が参加した。
- ・ 新学科受験希望者に向けたオープンキャンパスを 8 月に、また、9 月に文部科学省から令和 6 年度の学科設置認可を受けてミニオープンキャンパスを 10 月に実施した。2 年生を中心に一部の 1 年生、3 年生が課外活動として企画、準備に携わり、来場者の案内や実習実技の体験コーナーでのガイドを行い、来場者には大変好評であった。
- ・ 12 月 16 日に高等教育コンソーシアム久留米が主催した「第 8 回サイエンスモール in くるめ」にて、1 年生がイベントを企画・準備に携わり、当日は体験ブースを設けて 2 歳児から高校生まで幅広い年齢層の来場者に対応した。

その他、大学病院の看護助手のアルバイト及びボランティアの募集を学生に伝えた。全学年から希望する学生が応募し、外来や入院患者さんのサポートをしながら医療現場の在り方やチーム医療についての見聞を拓げる機会を提供した。

資料1 令和5年度 業績 (下線部は専任教員)

【原著論文】

1. Fukumitsu C*, Sanada S, Ogasawara S, Tsuda N, Murotani K, Akao M, Ushijima K, Akiba J, Yano H. CXCR4 expression and cancer-associated fibroblasts may play an important role in the invasion of low-grade endometrioid carcinoma. *Int J Gynecol Pathol*. 2024. DOI:10.1097//PGP.0000000000001015
2. Miura M, Gotoh K, Tanamachi C, Katayama H, Fuketa H, Tomoike H, Kawamura N, Watanabe H, Mihashi M. Microbiological analysis concerning the antibacterial effect of atomized Ionless® hypochlorous acid water in a nursery school environment. *J Infect Chemother*. 2023 30:123-128. DOI: 10.1016/j.jiac.2023.09.024.

【総説】

1. 関 律子、岡村 孝. 【血液症候群（第3版）-その他の血液疾患を含めて-】凝固・線溶異常による出血傾向 先天性凝固異常症 血友病および類縁疾患 先天性第X因子欠乏症・異常症（解説）. 日本臨床別冊 血液症候群Ⅲ （2023. 11）186-190.

【学会発表】

1. 糸山 貴子、都合亜記暢、船津貴志、太田啓介. エチレングリコール誘導腎障害モデルにおける近位尿細管の微細変化. 第79回日本顕微鏡学会学術講演会 令和5年6月26日（島根）
2. 三浦美穂、片山英希、森田真介、棚町千代子、酒井義朗、渡邊 浩. 久留米大学病院救急処置室におけるイオンレス®（次亜塩素水）シーエルファイン®の除菌性能に関する報告.（シンポジウム）第38回日本環境感染学会総会・学術集会、令和5年7月21日（横浜）
3. 酒井 理心*（学生）. 私の理想の検査技師像. 第57回日臨技九州支部医学検査学会 学生フォーラム. 令和5年10月22日（佐賀）
4. Takeya M*, Nakamura KI, Takano M. Identification of PDGFR α ⁺ subepithelial interstitial cells as a pacemaker in the guinea pig seminal vesicles. (Symposium) The 101st Annual Meeting of The Physiological Society of Japan. March 28th, 2024. (Kokura)

【講演】

1. 関 律子. 症例提示：リンパ系腫瘍（マクログロブリン血症）. 日臨技卒後教育研修会『第34回血液検査研修会』2023年12月17日（長崎）

【学位取得】

博士（医学）

1. 福満 千容 令和6年4月1日取得

学位論文題目：低悪性度子宮類内膜癌における CXCR4 発現と癌浸潤能の病理学的検討.